

## 1 テーマ

ふるさと科における課題の解決に必要な知識、技能を身に付けるための探究的な学習について  
(第1学年 ふるさと科)

## 2 テーマ設定の理由または、課題

本校では、学校や地域の実態に照らしてより効果的な教育を実施するため、教育課程特例校として学校独自に「国際コミュニケーション科」と「ふるさと科」を設定している。この2つの教科は、特別であるということに留まらず、本校ならではの良さを生かした授業の進め方を実践している。その活動に焦点を当てて、研究を深めることで、日頃自分たち教師が意識していなかった成果や課題を認知し、より充実したふるさと科の授業の実現につなげていきたいと思い、今回のテーマを設定した。本研究では、第1学年のふるさと科の授業における、本校の良さを生かした実践について、その成果と課題を探究していく。1・2年生ふるさと科の目標は、「ふるさとの自然や身近な人々と触れ合うことを通して、地域のよさに気付くことができる」である。そこで、本研究では(1)「ふるさとの自然との触れ合い」、(2)「身近な人々との触れ合い」の2つの視点で実践、成果と課題の探究を行った。

## 3 実践内容

### 1. 単元の導入

1年生は7人が在籍しており、全員が隣接校区から入学したり、引っ越しをしてきて入学したりしている。そのため、引佐地域について全く知らない児童がほとんどである。単元の導入では、「いなさちいきてどんどころ」という単元名を明示し、ふるさと科の授業の見通しを持たせた。

### 2. 活動内容

#### (1)ふるさとの自然との触れ合い

第2次からは、「〇〇はかせになろう」という目標を立て、〇〇に入りたい言葉(調べてみたいこと)を考える活動を行った。考える際は、校舎の周りや地域探検で見つけた生き物を参考にしたり、学校運営協議委員をされている方が代表を務めているNPO法人が発行したガイドブックを参考にしたりしながら取り組ませた。れた自然や生き物、見たことがなくても、調べてみたい自然や生き物という2つの視点で考えた。



#### (2)身近な人々との触れ合い

5、6年生のふるさと科の授業では、人々の思いにも焦点を当てていく。そのため、1年生から人との関わりを意識して授業を進めている。1学期は、地域探検や稲刈り体験などの体験的活動を通して異学年との交流、地域の人々との交流があった。また、お昼休みに、中学生がふるさと科の授業で運営をしている「模擬会社きりやま」の販売会の準備の手伝いを自主的に行っている児童もいる。



### 〇ICTの活用について

1年生は、テレビに投影した生き物の特徴を捉えたり、指示棒を使って写真を指し示しながら発表をしたりしながらふるさと科の授業に取り組んでいる。

## 4 成果と課題

地域探検などで地域の人々の協力を得やすい環境が整っていること、学校の周辺の探検でも、十分に季節の変化や地域の自然を感じられることは、児童が主体的にふるさと科の学習を進めていく上で、大きな強みである。1年生の児童は、地域の自然や生き物に興味津々な様子でふるさと科の活動に取り組んでいる。

今後の課題は、ここで調べたことを「引佐地域の良さ」につなげていくことである。活動の様子を見ると、調べていくうちに、「その動物や植物について詳しくなること」が目標になってしまっている児童も少なくない。「詳しくなる活動を通して、地域の良さに気が付き、それを自分で伝えられる子供」を目指して、児童が「引佐地域の良さ」という視点から外れることがないように支援をしていく必要があると感じた。